

会議概要

1	審議会名	令和元年度第2回安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議
2	日 時	令和元年12月5日(木) 13時30分から15時00分
3	会 場	安曇野市役所3階共用会議室305
4	出席者	木村委員(会長)、田村委員(副会長)、栗田委員、内田委員、丸山(学)委員、山田委員、矢澤委員、伊藤委員、岩本委員
5	市出席者	上條政策部長、野口政策経営課長、児林政策経営課長補佐、企画担当神谷主査、企画担当米山主査
6	公開・非公開の別	公開
7	報 道	2名
8	会議概要作成年月日	令和元年12月5日(木)

協 議 事 項 等

1. 開会

2. 挨拶(木村会長、上條政策部長)

3. 協議事項

(1) 第2期安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

第2期総合戦略について、庁内で検討し、体系や施策の素案をとりまとめたので、素案に対しご意見いただきたい。(詳細は資料のとおり)

「質疑応答」

◆基本目標1「新たな雇用を生み出す」について

・KPI「新規起業者数」について、第2期でどのような業種に力をいれていくか想定はあるか。
⇒具体的なターゲットとして、業種は絞ってはなかったと思う。

・KPI「新規就農数」について、力を入れて取り組む品種や農業形態などはあるか。
⇒就農希望者側の希望も伺う中で就農相談を行っている。なお、第2期ではスマート農業の検証も予定している。

・新規就農は難しい課題。農業単独で施策を進めるよりも、企業と組んで農業の付加価値を高めることを考えてはどうか。市内には世界に誇る企業もあり、マッチングによる相乗効果も期待できるので、行政でコーディネートしてはどうか。

・KPI「企業誘致」により、どれほどの雇用が生み出されるか想定しているか。
⇒雇用創出に向け、どのような企業を誘致するかは重要な視点となるが、現状、企業誘致のための用地等の確保自体が大きな課題となっているため、誘致企業数を目標とすることを考えている。

・数値目標「就労者数の割合」の基準値、20.6%は他自治体と比べてどうか、確認しておくこと。

・基本目標「認定農業者」に対し、市ではどのような支援を行っているのか。もし、補助金の交付だけであれば、意味ある「認定」といえるか疑問。

・数値目標「認定農業者」のなかに、法人はどの程度含まれているか、確認しておくこと。

・KPI「テレワーク」は、他の自治体でも取り組んでいるが仕事の確保、運営が難しいと聞いている。取り組みの内容が重要。仮に内容が伴わない数字であればKPIとしていかなものかと考える。

◆基本目標2「移住定住の促進とともに、関係人口を拡大する」について

・社会増を目指す際には、移住だけでなく、若い世代の転出の抑制が重要。特に進学で市外へ出て、卒業後も戻ってこない。若い人をここに残す努力が弱い。

- ・当市に来てもらうための具体的な策が重要。
- ・具体的取組「海外販路の開拓」について、KPI がないように見える。産直センターで輸出するのであれば説明はつくとは思ふ。

⇒調整する。

- ・KPI「コミュニティスクール」は、基本目標「関係人口の拡大」よりも別の基本目標、「出産子育て」や「暮らし続けることのできるまち」の方が、関わりが強く思える。
- ・基本目標「関係人口」について、現行戦略で地方移住がうまく進んでいないから、関係人口の創出という表現に変更したようにも見えてしまう。関係人口の事業はよいが、総合戦略として、進めるべき内容であるか検討が必要ではないか。

◆基本目標3「安心して出産し子育てできるまちをつくる」について

- ・KPI「放課後児童クラブの受入拡大」は、進めるべき。現在の入所要件では4年生以下でも入れない人がいるので、学年以外の要件緩和も含めて見直しを検討してほしい。
- ・KPI「子育てがしやすいまち」は、市民意識調査の結果とのことであるが、現状として子育てしやすいと思う人の割合がかなり少ない。原因を特定し、対策を打つべき。

⇒アンケートの回答の内訳は、他の自治体との比較したことがない等の理由で判断できない、といった回答が多かった。集計方法等を検討する。

- ・子育てや教育については、特徴ある取り組みを進めるべき。信州自然型保育のように市独自の環境を生かすような組み立てはできないか。
- ・ここでは働く環境の改善（働き方改革）、も取り入れるべきではないか。
- ・他の自治体では、出産に対するお祝いなど実施しているケースもある。単に補助金を配ることが良いという意味ではなく、子育てに対する市の姿勢を見せるという部分で参考にはなると思う。
- ・KPI「乳幼児健診平均受診率」は、すでに高い水準となっているため、この総合戦略であえて設定しなくてもよいのではないか。
- ・基本目標「安心して出産し子育てできるまち」と数値目標「自然増減数」の整合について確認が必要。もう一つ、基本目標を付けてもよい。
- ・基本目標、KPI、具体的取組がリンクしているか、整合について再確認を。
- ・具体的取組「結婚に対する支援」「若い世代」は、市として課題になっているか確認の上、掲載を検討するべき。

⇒国の総合戦略を勘案し設定したものだが、再考する。

◆基本目標4「人口減少社会においても安心して暮らし続けることのできるまちをつくる」について

- ・KPI「区への加入世帯数」について、区の住民に協働の意義を知ってもらい、協働へのモチベーションが高まり共鳴するような仕掛けができればと考える。区毎に取組状況は異なるので底上げを図る必要性を感じている。
- ・「協働」により暮らし続けることのできるまちをつくる、ということであれば、市民団体の活動やボランティアの活動が主となるのではないか。KPIとして、例えばボランティア参加数など実績として把握できれば良いとは思ふ。
- ・地域特有の課題として、冬場のスポーツ推進に取り組んでみたらどうだろうか。
- ・数値目標「安曇野に住みたい」と回答しなかった方がいる。この理由を分析し、対策を打つことが重要。
- ・立地適正化の考え方として、旧町村の中心や駅だけでなく、将来的に市としての中心部はどこなのか想定は持ったほうがよい。国道沿いの商店街の活性化は進めるべきと捉えている

⇒対等合併という背景から、直ぐに市の中心をきめることは難しい。立地適正化計画も長い年月をかけ、徐々に誘導を図っていくという内容である。

- 基本目標「人口減少社会においても安心して暮らし続けられるまち」とあるが、人口減少＝安心して暮らし続けられない、ということでもないと思う。人は少ない方が良好な生活環境とも捉えられると思う。

◆総括

- 国は、色々な政策を打ち出しているが、国の支援があるからといって、効果が見通せない施策に対しては、安易に手を上げず、市にとってどうかという視点で検討することが大切。総合戦略の策定にあたって市が必要とする取り組みに絞る、市独自の取り組みを進めるといった考え方が重要。

4. その他

5. 閉会（田村副会長）

以上